

# SEEDS



No.246 夏号  
2020 /



自然特集

隆起する大地の背に乗って  
— 天頂山へ —

活動紹介

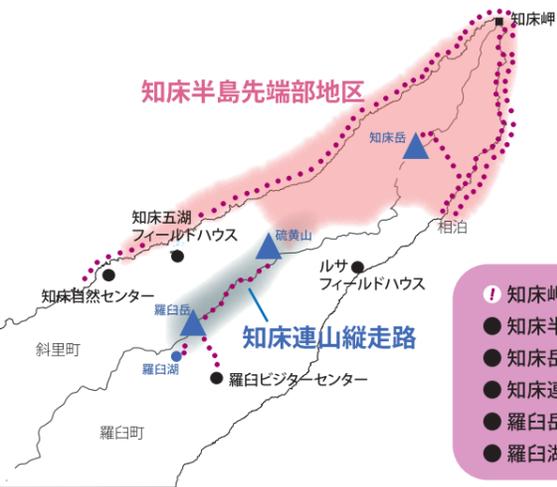
地を漕ぎ、海を這う

— 知り・学び・伝える・現地調査 —

第2回 スタッフの彩色 ~いろいろ~

知床財団購買部

知床財団 × tennen. 『Shiretoko Yoitoko Tee』



調査ルート

- ❗ 知床岬トレッキング (相泊～知床岬)
- 知床半島一周カヤック
- 知床岳
- 知床連山縦走
- 羅臼岳 (羅臼温泉ルート)
- 羅臼湖

現地調査は羅臼地区事業部のスタッフを中心にしています。調査するルートは全部で6箇所あり、知床半島先端部へのアクセス手段はトレッキングとカヤックの2通りあります。

現地調査では主に登山道や海岸部のルート上の危険箇所、標識や設置物の破損、風倒木の有無を確認し、残雪状況や動植物の自然情報を収集します。

どうして行っているの？

Check Points!



高山植物など旬な花の開花状況はどうか



登山道の融雪状況による道迷いの可能性や倒木が道をふさいでないか



縦走路のキャンプ地に設置しているフードロッカーが正しく利用されているかどうか



現地調査に密着!

Pick up!  
知床半島先端部  
知床岬トレッキング

知床半島先端部地区の現地調査（海岸トレッキング、知床岳登山、知床半島周回カヤッキング）は、「知床半島先端部地区利用の心得（どうし）」の内容を熟知し、各利用形態の経験および危険箇所についての知識を有する職員が行っています。



地を漕ぎ、海を這うー知り・学び・伝える・現地調査ー



活動レポート

世界自然遺産である知床は知床五湖、フレペの滝、カムイワッカ湯の滝など、散策やドライブで多くの観光客が訪れる景勝地があります。その一方で、山・海・川を有する知床半島はアドベンチャーフィールドとしても魅力的な場所です。本格的な登山やトレッキング、カヤッキングなどのアクティビティを楽しむ利用者も多くいます。

これらのフィールドを安全に利用していただくために、知床国立公園内にある知床財団の拠点施設（知床自然センター、知床五湖フィールドハウス、知床羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス）では利用者への単なる情報提供やルールの普及啓発にとどまらず、実体験に基づいた情報を利用者に提供するため、職員が実際に山や沿岸部に入る現地調査業務を毎年行っています。



文 - 江口順子 羅臼地区事業部

※この業務は環境省と羅臼町から受託して実施しています。

## 皆さま、 気になるポイントは様々です



知床連山縦走  
縦走路ではどこで水を補給できるかは重要な情報。取水ポイントは残雪状況により刻々と変わる。

「知床連山縦走コースで取水可能な場所はどこですか？」



知床連山縦走(硫黄山近く)  
残雪による危険なトラバースや道迷い箇所は要注意。知床の山は過度なサインがないため足跡に左右されず地図をしっかりと読むことが大事。

「登山道上に雪渓はどれくらい残ってますか？」



先端部カヤック  
上陸できる場所、沢水がとれる場所は限られている。飲む場合は煮沸、もしくは浄水が必要。

「沿岸部はどこで取水できますか？」



羅臼湖の歩道は知床一の湿地帯。長靴必須！春先も一見の価値ありだが残雪でルートを見失わないことが重要。

「羅臼湖歩道のぬかるみ状況は？」



海岸トレッキング  
「先端部の危険箇所は？」  
「海岸線のヒグマの出没状況は？」

「先端部の危険箇所は？」  
「海岸線のヒグマの出没状況は？」

！ 知床半島先端部は地形を攻略する知識や技術が最も必要とされるところであり、さらにヒグマの知識や対処法も重要となる。現地調査ではルート上にヒグマを誘引するものはないか、人に必要に近づくなど危険な行動をするヒグマはいないかなどを確認する。著しく危険な状況が確認された場合は「利用自粛」が要請されることもある。



先端部ならではの景色に癒される時も…



### トレイルは…ない!

知床岳しかり、海岸トレッキングしかり、「ここがトレイル」という道はない。道なき道を歩き、時には裸足になり川を渡り、倒木を渡りながら進みます。



### 準備

潮位や日の出・日没時間を調べて計画を立てます。海岸線の断崖を登り降りするためのロープワークも事前に訓練します。



食べ物はヒグマに取られないようフードコンテナに保管



### クマの作った土饅頭

### 腐敗したトドの死体



### ヒグマとの遭遇

ヒグマを誘引する動物の死骸などの有無を確認しながら進みます。ヒグマに行く手を阻まれ停滞を余儀なくされることもあります。



### 残置物の除去

残されている古いロープは突如切れる可能性があり危険なので、トレッカーが誤って使用しないよう撤去します。



バックカントリーではロープワークや危機管理など野外での経験・技術が必要とされます。現地調査は単に業務というだけではなく、スタッフを「知床のプロフェッショナル」に育てる場でもあります。

## 情報発信 ～現地調査はすべてこのために～



海岸トレッキングに行く利用者に対しフードコンテナ貸出手続きなどのレクチャーを行うスタッフ

バックカントリーを利用する方に最新の状況を伝えることが知床を安心して楽しんでいただくことに直結します。現地調査で得た情報は各施設で共有し、来館者への情報提供やウェブサイト、SNS等で発信しています。

>> こちらをチェック! <<

◎遊歩道やヒグマの最新情報

知床情報玉手箱

<http://center.shiretoko.or.jp/i-box/>

◎知床半島先端部地区利用の心得

シレココ「SHIRECOCO」

シレココ

この現地調査は5月～9月にかけて、通算20回以上実施しています。この事業の目的は知床を訪れる方に最新の情報を提供して大いに知床を楽しんでいただくこと。そしてルールやリスクをしっかりと認識してもらって事故が起きないようにすることです。その時その時の知床を「知る」、と同時に自然への作法を「学び」、利用者へ知床の奥深さを「伝える」。これは知床財団の原点に立ち返る業務と言えるのかもしれない。知床を訪れる冒険者たちをいつでも笑顔で受け入れるために、私たちはこれからも地を漕ぎ、海を這う現地調査に挑み続けます。